

Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.13

平成29年1月1日



中央手術室スタッフ

目次

②・③

平成29年 新年を迎えて

院長 河野 陽一
事務局長 堤 圭介
看護部長 青田 孝子

④・⑤

当院の中央手術室のご紹介

麻酔科部長 伊澤 英次
呼吸器外科部長 安川 朋久
看護師長 入江真奈美
看護師長補佐 藤代 陽子

⑥

自動再来受付機移動のお知らせ

ろうさい mini News
クリスマスコンサートを
開催しました

⑦

連携登録医のご紹介 大木医院

⑧

当院の理念

平成29年

新年を迎えて



院長 こうの 河野 よういち 陽一

急性期医療から在宅支援まで 地域医療への取り組み

平成29年の新たな年が始まりました。明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみますと、千葉ろうさい病院にとって新たなステップになる出来事が幾つかありました。まずは1月に県より認知症疾患医療センターに指定されました。千葉県内の認知症高齢者は、2025年頃には約27万人になると推計されていますが、当院は市原地区の認知症患者および家族への支援体制をさらに充実して参ります。

病院が患者の方々に適切な医療を提供しているか、病院の機能や医療の質などを第三者が審査する仕組みとして日本医療機能評価機構による病院の評価があります。当院は2月にこの審査を受け、地域に根ざし、安心・安全、信頼の得られる医療サービスを提供すべく努力している病院であると認定されました。全国の約3割の病院が、日本医療機能評価機構から認定されています。

また、千葉ろうさい病院は、研修医を受け入れ、医師育成を担う教育病院としての役割も果たしています。そこで、医師への教育体制について卒後臨床研修評価機構の審査を3月に受け、整備された医師教育医療機関として認定されました。この審査には、教育体制における医療安全や適切な診療などの調査も含まれています。このように千葉ろうさい病院は、外部の第三者による審査を通して、より安全で質の高い医療を提供できる病院として日々努めております。

地域医療における当院の役割を第一に考え、患者の方々と近隣の医療機関との窓口になる地域医療連携部を整備して、地域との連携機能の充実を図っていますが、一方で市原市と千葉市など周辺地域は高齢化が着実に進んでおり、今もこの地域の急性期および慢性期の医療体制は十分とは言えません。今年も千葉ろうさい病院は、地域の中核病院として近隣の医療機関とも協力し、市原市および周辺の地域の医療に全力で取り組んで参ります。

本年も皆様方からの変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、平成29年が佳い年であることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。



事務局長
つつみ けい すけ
堤 圭 介

日頃より、地域医療機関の皆様には医療連携をはじめとした当院の運営に多大な御支援・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の医療制度改革は、2025年以降の世界でも類を見ない超高齢化社会への突入を踏まえ、これまでとは質の異なる大変厳しい改革が段階的に行われることになっております。特に、当院を含め急性期病院にとりましては、7対1入院基本料の厳格化や病床機能の再編、DPC医療機関別係数の組替え及び引下げ等、病院運営を大きく左右する内容となっています。平成28年度に実施されました診療報酬改定においては、DPC病院の暫定調整係数の引下げ等により、当院も一定額の減収となる見込みです。

こうした高齢化の急速な進展に伴う医療環境が大きく変化していく中、地域医療のあり方もこれまでとは質の違う方策を行政機関を中心に地域の医療機関が共に検討・実施していくことが重要だと感じています。その中で、当院も労災病院としての政策医療である勤労者医療の一層の推進を図るとともに、行政をはじめ大学関係、医師会関係の皆様と連携し、地域の医療ニーズにしっかりと対応し、今後も中核的医療機関としての役割を果たすために職員一同努力していく所存でありますので、引き続き皆様の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

近年、「病院完結型医療」から地域で安心して暮らせるための「地域完結型医療」という医療・介護連携の構築が求められ、当院でも様々な取り組みをおこなっています。今後さらに医療機関から暮らしの場へと、療養の場の移行が進む中、「どのような健康状態であっても自分らしい生活を送りたい」という、人々の価値を実現する重要な場面が病院内で行われています。そこで人生をよりよくするため、いかに支援するかが看護の腕の見せ所です。「患者さんが地域に戻っても、その人の望む生活ができるようにするために、退院支援・在宅療養移行支援を院内に定着させる」を意識したシステム作りを数年来実践してきました。医療の提供とともに、人々の「生活の質」を高める機能を強化する必要があり、ますます看護師が自律的に判断する機会が増え、患者さんは退院後どこでどのように生活していきたいのか、その自己決定への支援が重要となっています。当院では昨年より、入院時あるいはもっと早い入院前の段階から「患者に寄り添う看護」を実践するため、PFM（入退院・患者支援センター）の開設準備を始めてきました。今年は開設と拡大を意識した取り組みを進めていき、その中で看護が多職種と協働しながら今まで以上に専門性を発揮していきます。今後ともご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



看護部長
あお た たか こ
青田 孝子

当院の中央手

みんなのストレスとトラブルを減らしたい！



30年前に比べると、麻酔薬や、麻酔器、モニターなどは格段に進歩し、性能も安全性も使い易さも随分向上しました。しかし、患者さんの高齢化が進み、合併症の数や、重症度も増えています。侵襲的な手術が高齢者の方々にも普通に行われています。手術の数全体が増え、長時間の手術も多くなっています。あれやこれやで、麻酔科医の負担は少しずつ増大しています。加えて、以前から、麻酔科医は人手不足であり、非常勤医師の手を借りて運営しております。

患者さんの麻酔管理においては、術前の経口摂取の指示、術後の鎮痛、早期回復のための工夫などを通して、患者さんへのストレスを、より少なくし、手術を乗り切るお手伝いができるようにと考えています。中央手術室では外科系医師、麻酔科医師、手術室看護師、診療放射線技師、臨床工学技士、薬剤師など、様々な職種の方が働いており、それぞれ、専門性を生かした仕事をしています。手術室の責任者として、皆さんが、仕事を気持ちよく、やり易くできるように、看護師長と共に心配りをしています。又、厳しい医療財政の中、在院日数の短縮化が進められ、患者さんが手術の前日に入院することが多くなりました。そのため、術前診察、説明を、外来通院の時にできるようなシステム作りを少しずつ進めております。

千葉ろうさい病院中央手術部は沢山のスタッフに支えられています



千葉ろうさい病院の手術部は入院棟の3階に位置し、平成25年に各病棟と同様に新棟へ移転しました。9室の手術室では月平均約400件の手術が行われており、そのうち全身麻酔下の手術は約200件です。私は今年度手術室へ異動してきましたが、20年前にスタッフとして数年の経験がありました。医療の進歩に伴い、侵襲の少ない腹腔鏡や胸腔鏡の手術が増え、多種多様な医療機器・医療材料に驚くばかりです。一日平均20件もの手術は、多くの職種が関わることにより円滑に行われています。医師や麻酔科医、看護師だけでなく、患者さんを手術室に送り出す病棟看護師、手術機器に関わる臨床工学技士そして準備や後片付けを担っている鴻池メディカルスタッフ。

手術室看護師の勤務の特徴として待機制があります。二人一組でペアを組み、待機の日には指定の携帯電話を持ち帰宅します。この制度は20年前から変わっていません。当時は携帯電話ではなく、ポケベルでした。ポケベルが鳴ると、ご飯を作っている途中でも後は夫に任せ、子供に「お母さんお仕事がんばってね」と言われ、後ろ髪をひかれ自分は何も食わず、急いで仕事に向かった記憶があります。先日待機で呼ばれたママさん看護師も同じような光景だったようです。ついつい自分の記憶を時々かぶせてしまう昨今ですが、待機という20年も変わらないシステムの中に千葉ろうさい病院手術部の根強い基盤を感じました。

術室のご紹介

手術室運営委員会委員長として

当院の手術室では、1年間に全身麻酔下手術約2,500件を含む約5,000件の手術を行っています。つまり、毎週50例の全身麻酔下手術を含む100件の手術が行われていることになります。手術を行っている診療科は、整形外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、形成外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、産婦人科およびペースメーカー埋め込み術を行う循環器内科の11科に及び、それぞれが様々な疾患に対し多種多様な内容の手術を行っています。また当院は市原診療圏の地域がん診療連携拠点病院であることから、毎年500件をはるかに超えるがんの手術を行い、手術方法も患者さんの負担を軽減した高度なものとなっています。これらは同規模の病院の中ではトップレベルであり、一部の大学病院とも肩を並べる数字です。

これだけ多くの手術を、わずか4人の常勤麻酔医（うち一人は子育て支援の時短勤務）と非常勤麻酔医、そして少ない人数の手術室看護師で行うためには、各診療科の協力と効率的な手術室の運営が非常に重要です。手術室運営委員会は、麻酔医の負担をできるだけ軽減し、手術室のよりいっそうの有効利用を図るための調整や工夫を考え実行するために設けられました。今後当院の手術数を今以上に増加させ、高度な手術がより安全にできるように様々な意見を集約し、改善していく予定です。



手術室の看護について

皆様は手術室に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？テレビドラマなどでは、緊張感のある場所として描かれていると思います。手術室では、不安や緊張を抱えて入室される患者さんに、少しでも緊張がほぐれるようにお好きな音楽を聴いていただいたり、お声かけやタッチングを行っています。必ず手術室看護師が側にいますので、遠慮なく声をかけてください。また、以前手術を受けたことがある方は、寒いといったイメージを持たれているかもしれませんが、当院では入室時に患者さんが寒い思いをされないように、ベッドを温め室温を調節させていただいております。

手術介助以外にも、手術室看護師は麻酔医と共に術前外来や術前訪問を行っています。遠慮なく質問をしていただき要望を伝えていただきたいと思います。

手術を受けられる患者さんが、安心して安全に手術が受けられるようにスタッフ一同これからもがんばっていきます。



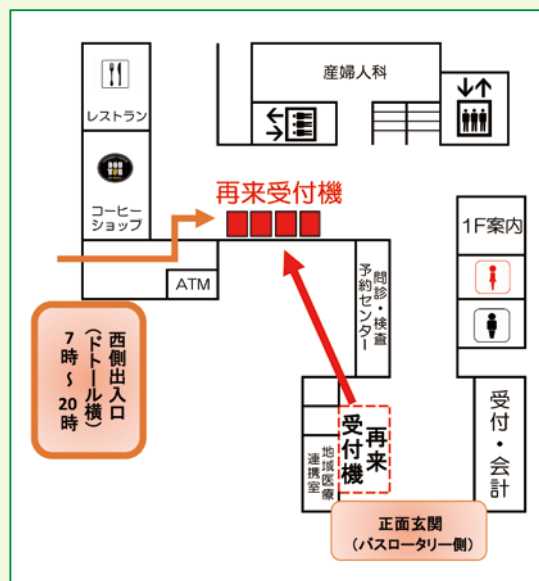
自動再来受付機移動のお知らせ

平成28年11月7日(月)より、自動再来受付機の場所を変更いたしました。正面玄関ホールの混雑緩和のため、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

自動再来受付機で受付をされる方は、西側出入口をご利用いただきますようお願いいたします。



▲自動再来受付機と西側出入口



▲1階案内図

ろうさい mini News

クリスマス
コンサートを
開催しました

12月21日夕方、ホスピタルストリート2階にて、クリスマスコンサートが開催されました。

出演は、安富外科部長(トロンボーン)、高綱眼科部長(ピアノ)、小沢リハビリテーション科部長(バイオリン)、高橋理学療法士(ピアノ)に加え、ピアニスト近藤和花さんです。多くの患者さんが参加されました。

音楽を聴いて、少しでも心の癒しとなり、少しでも早く回復していただければと願っております。



▲多くの患者さんが参加されました



▲小沢リハビリテーション科部長と高橋理学療法士



▲安富外科部長(志木の森トロンボーンアンサンブル)

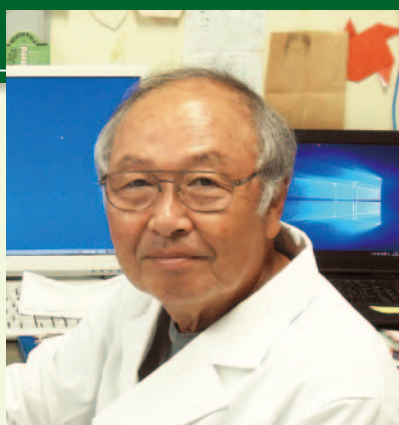


▲ピアニスト近藤和花さん

連携登録医のご紹介

大木医院

院長 おおき よしひで
大木 美秀 先生



小児科を標榜した診療所を開設してから30年が過ぎました。精査の必要な患者さんの多くを千葉ろうさい病院で診察していただきました。ろうさい病院が無かったなら千葉市や木更津市などの遠隔地まで患者さんを紹介をしなければなりません。特に小児科では入院や時間外の救急の紹介に際し、快く引き受けていただいています。逆紹介も丁寧な内容で入院中の病態がとてもよく理解できるものです。情報提供書を作成することはかなりの負担だと思われます。多忙な中で逆紹介して頂けることに感謝しています。

さて今回 長年とおいた私の宝物を紹介したいと思います。

すべての写真には載ってはいませんが、二枚の写真は若い若い女の子からの愛の告白です。似顔絵を描いてくれたり、

言葉を添えてくれたり。これが私の宝物です。世界に二つと有りません。予防接種の時に大暴れした子が母親になって、その子の予防接種や乳児検診に当院に来てくれる。こんな時が小児科医の喜びの一瞬です。しかし現在小児科医は減少してきています。少ない小児科医に負担が多すぎて小児の救急医療が今までどおりに続けていけるかとても心配です。

“カゼは万病のもと” こんな諺も知らない世代が多くなっています。病気への対処は最も身近な危機管理です。病気への基本的な教育はどうしたら良いか？おおいに悩むところです。

大木医院 診療案内

〒290-0075 千葉県市原市南国分寺台4-7-9

電話番号 0436-23-8881

診療科目 小児科・内科

診療時間		月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	9:00~12:00	○	○	○	休	○	○	休
午後	15:00~17:00 (受付12時~)	○	○	○	休	○	休	休

※予防注射（予約制）毎週火曜日 14時~15時

※乳児健診（予約制）毎週水曜日 14時~15時

※受付は診察終了時間の15分前までにお願いします。

【休診日】木曜日・日曜日・祝日

千葉ろうさい病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に高度で安全な医療を提供します。

基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくれます。



クリスマスイルミネーション（中庭）

千葉ろうさい病院では、11月22日にクリスマスイルミネーションを設置しました。
当院を利用される方々に少しでもクリスマスらしい雰囲気を感じていただけたらと思います。

編集 後記

2017年 新しい年の始まりです。毎年この時期になると時が経つ速さに驚愕し、昨年過ごしてきた日々を思い起こしていますが、皆様はいかがでしょう？

繰り返される平坦な日々とを感じる一方で、同じ時間は二度と訪れないと考えた時、時間と丁寧に向き合っていく事の大切さを改めて感じています。そして、今後訪れる時間に価値を見出すことができるよう、気持ち新たに日々邁進していきたいと思っています。

寒さ厳しい日は続きますがご自愛いただき、今年も皆様にとって実り多き年となることをお祈りしております。

窪岡 陽子（看護部）